



横浜市立一本松小学校

11月号

学校だより

令和5年10月31日
横浜市立一本松小学校
校長 高桑 透

一人ひとりが地域、学校のたからもの!

副校長 杉山 嘉子

吹く風が、確実に涼やかなものになってきています。11月を目の前にして、ようやく秋の訪れを感じられるようになりました。

先日の「一本松オリンピック(運動会)～全力を出し切って 勝利をつかみとれ!一本松!～」では、子どもたちに温かなご声援をいただきありがとうございました。

今年は猛暑のため、夏休みが明けても、9月末になっても、屋外での運動や遊びが制限される日が続き、一本松オリンピックに向けての練習は間に合うのだろうかと不安な日々でした。

10月になって、各学年の演技練習にも熱が入り、演技の歌を口ずさんだり、手の動きを再現しながら廊下を歩いたりする子どもの姿、演技のテーマが書かれた掲示物、中・昼休みにもリレーの自主練習を行うなど主体的に取り組む姿、学校生活の日常にも、オリンピックがじわじわと浸透していく様子が見られるようになりました。

よい運動会にしたい、全力を出し切りたい、子どもたちの「強い気持ち」が、練習や準備を通して、高まっていくことを感じました。それは、10月28日(土)の本番に照準を合わせて、子どもたちの最高潮を表現させたい、全力を発揮させたいという私たち教職員の思いも同様でした。子どもたちの「できた!」「やったー!」の笑顔のために、昨日の自分から一歩でも前に進むことができると、校庭の周りの環境整備、朝のライン引き、綿密な計画と打ち合わせをする教職員の姿がありました。

また、今年度も一本松共育倶楽部、PTA 本部役員、保護者ボランティアの皆様が、運動会運営がスムーズに進むようにと準備や当日のサポートをしてくださいました。

一人ひとりの成長を願う気持ちが、一人ひとりを大事に思う気持ちが、子どもたちを支えています。多くの温かな支えの中で、素直な気持ちで前向きに取り組む一本松小学校の子どもたちは、地域、学校のたからものです。

学校教育の在り方が問われる今、「個別最適な学び」と「社会につながる協働的な学び」の実現が目指されています。この4年間で、これまでの当たり前であった一斉授業が、一人一台端末による新しい学習方法が推進されるなど、まさに学校教育の転換期です。

体育的な集団活動である「運動会」本番に至るまでの過程は、協働的な学びを積み重ねる中で、一人ひとりが課題解決に取り組む場面、様々な学びと感情体験を生み出す場面の連続です。

一本松オリンピックでも、「全力を出し切って、勝利をつかもうとする」プロセスにおいて、喜び、悔しさ、葛藤など多くの感情体験をしながら、子どもたちの心の中で様々なストーリーが繰り広げられ、新たな自分自身との出会いがあったのではないかと想像します。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」のベストミックス、これからも一本松小学校の教職員全員で追究したいものです。

11月は「一本まつり」です。学校のチカラ、家庭のチカラ、地域のチカラを結集して、「一本松小のたから」たちの「ウェルビーイング」の深化を期待しています。

今月も、一本松小学校教育活動へのご理解、ご協力よろしく願いいたします。